

0315

3

十九年六月

大東亞戦争

功績部

戦時日誌  
秋丹

昭和十九年八月  
至昭和十九年十二月

昭和十九年五月防務研究所戦史室貼付

功績部

功績部

八月(十九年) 秋丹(十九年)

九月(十九年) 戦闘詳報

十月(十九年) 至昭和十九年 月

十一月(十九年) 防務研究所戦史室貼付

0313 01

軍極秘

三十一

自昭和十九年六月一日  
至昭和十九年六月三十日

驅逐艦秋風戰時日誌

驅逐艦秋風

19.9.25

(目次)

- 一. 作戰經過概要
- 二. 人員現狀
- 三. 令達報告等
- 四. 參考
  - (一) 諸調査事項
  - (二) 戰訓
  - (三) 寫真
- 五. 船体兵器機關等

(目次終)

二	二	一	日
卷	鶴	舞	在 所
一六五 一 半晴	八二 七 曇	五二 五 晴	午 六時 上 午 六時
二四 一 三 曇	二五 三 半晴	二五 八 曇	氣 候 天 向 風 速
三〇 一 五 曇	二一 〇 半晴	三 四 五 曇	日 象 候
隊 逐 駐 〇 三 第			務 任 最 一
層 附 隊 部 勤 機			務 任 別 特
	自 一 四 〇 〇 〇 強 葉 搭 載	外 駭 臨 途 表	經 過 概 要
			記 事

昭和十一年三月五日  
 昭和三十二年三月五日  
 昭和三十二年三月五日

七	六	五	四
德山港		五 110°-57'N 135°-56'E 六 110°-57'2E 135°-25'E	
三 一 〇 〇 〇	九 〇 〇 〇 〇	一 九 〇 〇 〇	三 一 〇 〇 〇
三 二 〇 〇 〇	三 〇 〇 〇 〇	二 九 〇 〇 〇	二 〇 〇 〇 〇
二 〇 〇 〇 〇	二 〇 〇 〇 〇	二 〇 〇 〇 〇	二 〇 〇 〇 〇
第三十 隊 巡 駑 十 三 弟			
機 動 部 隊 附 屬			
		自一五二〇 德山着 至一六〇五 豆柏格載 至一八三〇	自一八三〇 舞鶴發 德山に向フ 自一〇九〇 於若狹渡公試 至一五〇〇
	碓泊諸訓練ニ從事		

十一	十	九	八
三三°-17'N 33°-44'N		33°-26.5'N	
132°-23.5'E 132°-20'E		133°-07'E	
二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇	二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇	二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇	二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇

隊 逐 驅 十 三 第  
層 附 隊 部 動 機

<p>〇七〇〇 反泊地榮 一三五〇 吳看(廻)</p>	<p>〇八〇〇 反泊地榮 出動諸訓練 一七〇〇 本浦反泊</p>	<p>〇七〇〇 德山榮 出動諸訓練 一七三〇 長濱反泊</p>	

五		五		十三		十三	
港		山 德		港 吳		港 吳	
二〇五	二〇〇	三〇四	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇五	一〇〇
二〇五	二〇〇	三〇七	四〇〇	二〇五	二〇〇	二〇五	二〇〇
二〇六	二〇〇	三〇二	二〇〇	二〇二	二〇〇	二〇〇	二〇〇
隊 逐		隊 逐		十 部		三 隊	
屋 附		隊 逐		十 部		三 隊	
一四三〇		自〇八五		一五三〇		飛取機材修理	
バオニ向テ徳山着下		至〇九三〇 皇油搭載		至二〇三〇 皇油搭載			
		司令駆逐艦ヲ夕月ヨリ秋風ニ 変更ス					

2280

04

九	大	七	六
22°15'N 120°22'E	高雄港	22°-49'N 27°-15'E 120°-47'E	32°-17'N 126°-27'E
二六〇 一〇曇	二六六 二〇曇	三三八 五〇曇	二二五 二〇晴
六三五 五〇曇	六三五 二〇曇	四三三 二〇曇	三三四 一〇曇
二七〇 一〇曇	二六八 五〇曇	四四五 四〇曇	二二〇 二〇雨

隊 逐 駆 十 三 第

屋 附 隊 部 動 機

〇九〇日高雄	自一六〇日高雄着 至二二五日重油搭載		



0323

五	三	五	十
56°-22' N	7°-35' N	13°-05' N	18°-00' N
125°-50' E	121°-28' E	120°-31' E	128°-00' E
二五 一〇 曇	二七 四〇 半晴	六八 二〇 半晴	二六 一〇 曇
二七 五〇 曇	二八 七〇 曇	六七 五〇 曇	二五 一〇 雨
六二 〇〇 雨	六四 三〇 曇	六九 四〇 半晴	二七 五〇 曇

隊 逐 駆 十 三 第  
層 附 隊 部 動 機

一五三〇 夕 八 才 着			

三 七	三 六	三 五	三 四
--------	--------	--------	--------

才                      バ                      タ

二五二 二〇 曇 北四	二五四 二〇 曇 北一	二五五 二〇 曇 北一	二五五 二〇 曇 北一
二八〇 四〇 半晴 北一	二六〇 四〇 曇 北二	二五七 四〇 半晴 北三	二五五 五〇 半晴 北三
三〇〇 四〇 半晴 北二	二七九 四〇 曇 北三	二六〇 二〇 曇 北一	二九二 二〇 曇 南一

隊 逐 駆 十 三 第

屋 附 隊 部 官 機

<p>〇〇一五 〇八五 同右終了 反泊地 外才 錨地着</p>	<p>一九三 二一五 皇油搭載 爲 皇油搭載始々 (榮洋丸構付)</p>		



(二) 人員の現状

區分		職官		氏名	
三	司令	主務	大佐	澤村 成二	立
十	組長	主計	大尉	片山 贊典	立
驅	同	主任	中尉	柳川 隆	立
秋	同	同	少佐	阿部 克己	立
風	同	同	同	山崎 仁太郎	立
	同	同	同	三木 綱久	立
	同	同	同	岸井 考次	立
	同	同	同	島山 豊秀	立
	同	同	同	小口 茂	立
	同	同	同	川崎 兼季	立
	同	同	同	百金 茂樹	立
	同	同	同	笠井 節	立
	同	同	同	齋藤 外之	立
	同	同	同	八十島 直記	立

秋 風		手 廻		區 分	秋 風	
合 計	奇	下 士 官	下 士 官		同	同
一 二 四	七 八	三 五	三	兵 科	同	同
四 九	三 〇	一 九	〇	機 関 科	機 械 長	同
二	一	一	〇	工 作 科	長	同
一	〇	一	〇	護 科	少 尉	同
一	九	二	〇	主 計 科	下 八 尺 當 方	近 澤 正 雄
〇	〇	〇	〇	其 他	田 中 德 松	菅 野 三 郎
一 七	一 一	五 一	三	合 計		同

三下士官弁及其他ノ員數

(前月末日現在)

<p>3rd 司令</p>	<p>司令官 司令官 司令官</p>	<p>司令官 司令官 司令官</p>	<p>司令官 司令官 司令官</p>
<p>司令</p>	<p>司令官 司令官 司令官</p>	<p>司令官 司令官 司令官</p>	<p>司令官 司令官 司令官</p>
<p>機中修理 同航</p>	<p>機故障修理不能修理為 吳國航</p>	<p>一内海西部 二五日一二〇日 三四日八〇〇 吳艦所系</p>	<p>令達 報告口等</p>
<p></p>	<p>無電</p>	<p>無電</p>	<p>程引</p>

<p>六月十四日 司令官</p>	<p>六月十四日 指揮官 GKE9</p>	<p>六月十四日 KDB 長官</p>
<p>六月十五日 司令官 TYFJ 東 艦長 E 艦長 G 艦長</p>	<p>六月十五日 司令官 2sd 新 艦長 秋風艦長 其他</p>	<p>六月十四日 3sd 司令官</p>
<p>十四日司令官 駆逐艦 秋風 変更 セリ</p>	<p>3sd 機密第一二〇九三番電 関聯 自本月秋風方面進出ノ途次出末得ル 限り第一海軍護衛隊ノ護衛ニ協力ノコトニ 取計心度 以下畧</p>	<p>KDB 電令作第二四號 3sd (本月ノ血鉄)ハ六月十七日一ス。 E 兵(一二度ノ一三一度巨)ニ於テ第一 補給部隊ニ合同スベシ</p>
<p>無電</p>	<p>無電</p>	<p>無電</p>

<p>六月十五日 30dg 司令</p>	<p>第一補給部隊 指揮官</p>	<p>左件佐吉保吳各通信隊へ電話 方依頼ス秋風十六日。吳通ヲ去リ 佐通ニ入ル</p>	<p>手旗</p>
<p>六月十三日 30dg 司令</p>	<p>第一補給部隊 指揮官</p>	<p>二十三日一七。秋風M D着補給 上第一補給部隊ニ合同ノ予定</p>	<p>無電</p>
<p>六月十一日 30dg 司令</p>	<p>第一補給部隊 指揮官</p>	<p>秋風M D着燃料無キ為当地 ニ待機ス</p>	<p>無電</p>
<p>六月十日 30dg 司令</p>	<p>其他 司令官</p>	<p>秋風M Dニ於テ補給終了在庫量ニ 爾後ノ行動ニ関シ指令ヲ乞フ</p>	<p>無電</p>



<p>32AB9 司令官 六月十九日</p>	<p>司令官 六月十九日</p>
<p>GEBJSd 司令官 長官</p>	<p>秋風 長官 六月十九日</p>
<p>辰和丸船團ヲ護衛M/D 五月一八三〇川着ノ予走</p>	<p>秋風ヲシテダバオマニラ間長和丸ノ 護衛ニ任ゼルニ付御了承得度</p>
<p></p>	<p></p>

- 四. 参考
- (一) 諸調査事項
- 記 事 ナシ
- 二. 戦 訓
- 記 事 ナシ
- 三. 寫 眞
- ナシ

五. 船体、兵器、機関等

(一) 船体

(1) 臨戦準備(第一作業)

完 備

(2) 船体、損傷

ナ シ

(3) 改造修理新設

記 事 ナシ

(二) 兵器

(1) 臨戦準備(第一作業)

記 事 ナシ

(2) 主要兵器ノ故障、破壊亡失

記 事 ナシ

四. 主要兵器改造修理新設

一. 砲術科

工	事項	内容	着手	竣工	理由
	砲戰指揮通信暗路		五、六、二	五、六、三	短絡不具合
					由

二. 水雷科

工	事項	内容	着手	竣工	理由
	水中探信儀受振器		五、六、二	五、六、三	雑音大
	魚雷戰指揮通信暗路		同	同	電話不通
					由

三. 航海科

工	事項	内容	着手	竣工	理由
	上空識別灯		五、六、二	五、六、三	
					由

五. 主要兵器消耗及補給

一. 砲術科

二 水 糧 科

名	稱	消耗量	補給量	記	事
一 三 糧 油 滑 習 彈			六	年度用	
全	帶 渡 藥 包		六	同 右	
二 五 約 以 餘 額 羽 彈 藥 包		五〇		公 試	
五 號 投 射 裝 藥 包		一	〇	找 射 敵 練 三 子 消 耗	找 射 敵 練 三 子 消 耗 之 數 不 口 三 付 補 給
一 号 發 音 彈		三			
三 号 發 音 彈		二			





記事ナシ

期	二十分待機	十五分待機	十分待機	五分待機	即時待機	即時待機	即時待機	即時待機	即時待機
6-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-12	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-15	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-17	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-18	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-19	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-21	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-22	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-23	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-26	0	0	0	26-0	0	0	0	0	0
6-25	0	0	0	26-0	0	0	0	0	0
6-26	0	0	0	26-0	0	0	0	0	0
6-27	0	0	0	16-26	0	0	0	0	0
6-28	0	0	0	26-0	0	0	0	0	0
6-29	0	0	0	8-25	0	0	0	0	0
6-30	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0-30	0	1863	0	0	0	0	0

機務行機

義成式及数  
パーソンズニ軸  
車減速  
カレン高低圧ニ軸



(五) 工作

(1) 臨戰準備(第一作業)

記事ナシ

(2) 工作機械ノ整備

一金工ノ部

記事ナシ

(3) 木工ノ部

記事ナシ

(六) 醫務衛生

第一、第三、第四、該當事項ナシ

第二、出征中、事項

一、醫務科員、異動

海軍醫務衛生委員會、西野總三、音舞鶴ニ於テ退任、青島海軍團、

二、天候、概況

三、任務行動、概要

			最大値	最小値	平均値
正午氣温	二九・〇		二〇・三	二四・九	
湿度	二九・〇		一六・八	二二・七	
气压	七六八・〇		七五六・三	七六一・六	

日	時	任務行動、概要

一九	一八	一五	一三	一二	一〇	九	五	四
〇九〇〇	一五五五	一四九九	一五三〇	〇八〇〇	一三〇〇	〇七〇〇	一七〇〇	〇八二五
高雄出港	高雄入港	徳山出港	徳山入港 爾後停泊訓練	吳出港 出動訓練	吳入港	本浦出港 出動訓練	本浦假泊	長浜出港 出動訓練
							長浜假泊	徳山出港 出動訓練
								徳山入港 爾後停泊訓練
								舞鶴出港 公試運轉後一五二 徳山向ヶ回航

四、前記ニ関係アル物品ノ搭載

糧食		生糧品		被服			治療品	品種	日	受込先	品名・数量
一	二	一四	一八	一三	二五	二二	二	一三	一	二	三
百参	高需	吳需	高需	舞需	百参需	吳需	舞需	吳病藥劑部	向ヶ辰和丸ヲ護衛シテオオト出港	陸靴	アンナカ外ニ一點
七分	七分	一日分	七分	毎日當日分	陸靴	下士官軍帽前章外五件	靴下				

五、該營事項表  
衛生情況

野糧品		撒載由上月末保有量約三ヶ月分				
飲料水	八	德港	一五噸	水質良好		
	一二	吳港	一〇噸	"		
	一八	高港	三噸	"		
	二四	白參需	一〇噸	有微粉多量(同前)方ニ酸カリ消費		
	三八	"	一〇噸	"		
受療患者進数	五八二一	受療人員数	五			
現員延数	九〇	平病	二			
休業 "	一九	外傷	一			
輕業 "	二二	性病	四			
重業 "		傳染病				

新來艦兵員中六艦船勤務未経験者多ク且體力氣力共ニ旺盛ナ  
ラザル者多ク認メテ從來ヨリ受療患者數増加シ從テ休業輕  
業患者ニ四五名ハ常ニ絶エズル情況ナリ  
八、九、廿 該當事項ナシ

衛生ニ關スル検査

水質検査

大カノ百參需ニテ塔載セシ飲料水ハ有機物精多量ナリ  
一立ニ付遊メニガシ酸カリニシテヨリ消費セリ

定期考査表身付検査並施行

二、醫務衛生ニ關スル今運報告ノ入事

日	發送先	件	名
八	宛ニ。駐軍區長	青今人員自表診察記録醫務事日誌	
	宛佐病院長	部外奉談患者報告(但外出大作分)	

宛 普 邦 務 科 長	昭和八年度津那高現況報告
宛 第 一 師 團 長	五月分 戦時区事務月報 及 軍醫長會報告書
宛 佐 病 院 長	部外委託患者轉歸報告(但一水外山大作)分
宛 佐 國 軍 医 長	轉轄通知(右同)

二 兵員勞働、慰安、休息、概況

前半の内務訓練に従事し、後半に出撃後マシタル戦闘行動ニ  
 ナク一月ヲ終リ勞働トシタル從來ノ寧日程度低シト思考セラレ  
 ルニモ、業務、整理中ハ船舶ニ不馴ナル者多数アル為力、疲勞  
 倦怠等ヲ許アル者モ可成、數ニ上リタリ、  
 慰安休養トシテハ、新鶴、吳、徳山及、大八、各地方ニ於テ各自一團  
 宛ノ半艇散歩上陸ヲ許可セシ以外、概令ナシ、

三 該書目事項ナシ





0347

0347

二 被服		三 糧食		生糧品及貯糧品	
月日	物	種別	受込先	記	率
一月二日	靴	受込	舞需	貯糧品 月末保有量 二ヶ月	
一月二日	下士官軍帽別章外五件	受込	吳需		
一月五日	靴	受込	舞需		
一月八日	靴	受込	高堆需		
一月十日	靴	受込	吳需		
一月十三日	生野菜外	同	同		
一月十四日	同	同	同		
一月十八日	生野菜外	同	同		
一月二十四日	生果物外	同	同		

四 艦内用品

ナシ

五 戦時特別給用品

二十日ビール外四件酒保ヨリ購入

飲食物日用品本月分給等

六 参考

特ニ記事ナシ

終

軍報

機効能司令長官様

三十駆逐隊

昭和十九年六月二十日

第三十駆逐隊(卯月)戦闘詳報

六月十日提出



役	務	所管所屬
	八艦隊第三水雷戰隊第三駆逐隊	八艦隊(佐世保鎮守府)

(目次)

- 一 計畫(任務)
- 二 経過
- 三 令達報告及通報
- 四 戦果及被害
- 五 別紙第一(合戦図)

晴 二〇 一七二〇	月日 天候 時刻	第一第二補給部隊ヲ護衛針路二百七十度速力十四節ニテ北緯十五度三十二分東経百	戰鬪經過		友軍ノ戰鬪經過 概要
-----------------	----------------	---------------------------------------	------	--	---------------

二 經過

(一) 戰鬪經過

第三水雷戰隊(皐月夕風缺)ハ六月十七日一六〇頃迄  
 E点(十二度北一三一度東)ニ於テ第一補給部隊ニ合同ス  
 バシ

一 計畫(任務)

機密一四一四一六番電

機動部隊電令作第二四号

第三水雷戰隊(皐月夕風缺)ハ六月十七日一六〇頃迄  
 E点(十二度北一三一度東)ニ於テ第一補給部隊ニ合同ス  
 バシ

三十三度ノ地点ヲ航行中ニ百度方向ニ敵艦  
爆十六機西方ニ進ムヲ發見 配置ニ就ク  
第二戰速 針路三百四十度トナス

十七十九 發見セル敵機ハ西方ノ我機動艦隊ヲ攻撃 西方ニ我機動艦  
ニ向ヒタルモノト認メ一戰速 針路二百九十度 隊 彈幕ヲ認ム  
トナス

一七三八 四十度方向ニ敵艦爆二十二機發見 針路十度  
トナス

一七四二 針路三百二十度ニ變針

一七四六 二百八十度方向ニ敵艦攻三十二機 我機動艦  
隊攻撃ニ向フヲ認メ砲撃開始

針路五十八度トナス

一七五四 砲撃中止 針路四十五度ニ變針

一八〇。強速 針路〇度トナス

一八〇。五 九〇度方向ヨリ敵艦爆艦戦計二十数機

補給部隊ニ對シ來龍スルヲ發見射撃手  
開始ニ戰速 面舵取舵ニ轉舵後針路九十  
度トナス

一八四 針路三百三十度ニ變針

敵戸六百戰闘機一機本艦舷前方ヨリ艦  
橋ニ向ヒ突込ミ來ル機銃掃射後舷後  
方ニ去ル

各艦船射撃開始

速吸ニ爆彈命中

小火災約十五分ニテ

鎮火ス

清洋丸ニ爆彈(命

中大火災 玄洋丸

至近彈、爲機械

故障停止ス

敵三機他艦ノ射

撃ニヨリ墜落ス

ルヲ認ム

三令達通報及報告

特ニナシ

八二。一戰速 針路 百三十五度トナス

八二一 敵機東方ニ避退ス 射撃中止

八二三 敵機東方ニ見失フ 原速カトナス

八三。災上中、清洋丸ニ近接シ清洋丸乗員三十名風清洋丸ヲ處

四名ヲ救助ス

分ス

九三。救助作業終了玄洋丸、船ニ横付シ玄洋

丸指揮官以下乗員百六十一名ヲ救助シ

タル後、キングストン弁啓開 砲撃ニ日リ玄

洋丸ヲ沈没セシム

三五。第一戰速 針路二百七十度ニテ原隊ヲ追

及ス



四 戰果及被害

(一) 戰果

不明

(二) 被害

- (1) 煙突 一個所
  - (2) 左舷舷側三個所 (重油タンク二貫通)
  - (3) 意炊所左側二個所
- 信號兵一名敵機銃彈ニヨリ重傷  
敵機銃彈ニヨリ左記個所ニ小破口ヲ生ズ

第一(合戦圖)

